

家畜衛生情報

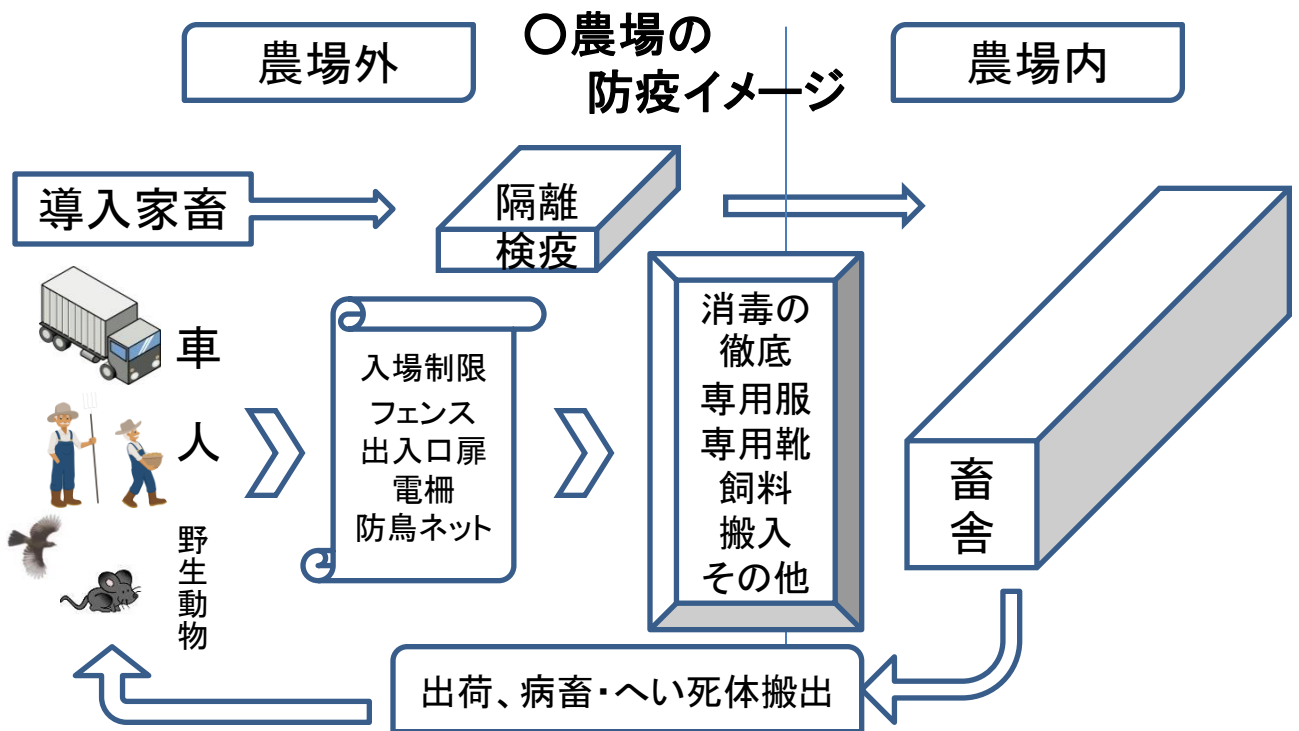
場内の区画・整理でバイオセキュリティ対策

季節が冬から春に変わり、これからは人の動きだけでなく病気の原因となる微生物や昆虫、野生動物の動きも活発になります。

盛んな春を迎える前に、農場内の作業動線を見直し、効率的な畜産経営を行いましょう。

場内区画の見直しは、バイオセキュリティ対策から、次の点に注意すると効果的です。

- 1 農場外からの侵入を防ぐ
- 2 農場内(畜舎、育成段階、家畜移動)での伝播を防ぐ
- 3 計画的な家畜の場内(農場間)移動
- 4 適正な環境の整備
- 5 効果的な消毒
- 6 自分の農場の効果的なルール作りと、その遵守・実行
(できることから1つ1つ進めて行きましょう)



★何から始めるか迷ったら家畜保健衛生所にご相談ください。

東濃家畜保健衛生所

(裏面もご覧ください)

TEL0573-26-1111(内395) FAX0573-25-7669

E-mail:c24507@pref.gifu.lg.jp



農場内の交差汚染を防ぐには！

1. 区域などの識別(ゾーニング)

○農場の内外区分

敷地内外の区分フェンス(垣根、柵、ロープなど)設置、出入口に看板と立ち入り記録帳など設置、事務室での注意喚起、消毒機器設置、石灰消毒帯、タイヤ消毒槽の設置

○普段使うものは専用化

- ・入り口で専用衣類、帽子、履物に交換
- ・畜舎ごとに長靴、消毒槽の設置

○区分の見える化

- ・入り口の判るところに専用衣類・長靴置場の設置
- ・農場内の専用物品は着色や名前記入して持込品と区分

○やむなく持ち込む場合は・・・？

- ・消毒の徹底(基本:水洗→消毒)
- ・噴霧消毒
- ・紫外線消毒箱 など



2. 畜舎への病原体侵入防止

○野生動物:軒下石灰消毒帯、鳥獣対策(ネット等の設置)、壁扉の補修、電柵など

○ヒト:入り口散水道具と消毒槽、専用長靴置場、手洗い場、手指消毒薬など

3. 飼料倉庫、堆肥舎での病原体侵入防止

防鳥獣ネット等の設置、病獣・死体は入れない(別に専用スペース確保)

